小松の千灯籠について

小松の千灯籠は、お地蔵さんや八大竜王さんを祀る子供たちの祇園祭（夏祭り）です。以前は地蔵盆であったが、多くの提灯で飾りたてることから千灯籠と呼ばれるようになった。本来は盆行事であったが、現在は家庭での初盆において豆提灯を飾ることが少なくなったので、提灯の寄付が集まらくなり参道に飾り付けができなり、時期もお盆過ぎの行事でなく、子供達の夏休み期間に行われるようになった。また、千灯籠の名称はそのまま存続している。

主祭仏神：地蔵菩薩と薬師如来（小松地区の中心地の児童遊園地横の地蔵尊堂にお祀りしてある。）
八大竜王（小松の南の端の江湖【佐賀江川】沿いの敷地に石祠がお祀りしてあります。）
創建　：未定
住所　：佐賀市蓮池町小松地区内

【由緒】
仏教では、人間の霊魂（れいこん）はあの世からこの世にやってきて、人間として次第に成長すると考えられている。しかし、子供は未熟で、いつあの世に引き戻されてしまうか分からないので、子供を守る仏様と言われる地蔵様や観音様・薬師様の後利益を受けられるように願い、地蔵盆（千灯籠）が子供たちの手で行われています。

以前はお盆を過ぎた頃の行事でしたが、いつの間にか取り残された行事になりました。
蓮池町内では8月24日の開催が最も多く、エビスさんは7月20日に集中しているといわれています。
蓮池町には60体ほどの石仏、石神様がおられ、祭りは各部落ごとに、子供たちの手で行われています。
高学年の子供たちは一日前から、お地蔵さんの周りを清め、竹笹を立てて、たて提灯を吊るします。
豆が完売できるように作戦を立てます。そして子供達全員の役割分担を決めていきます。
中学生上学年は重役クラスです。命令は絶対ですので先輩のいう事には従うしかありません。
千灯籠が終わった翌日の夏休みのラジオ体操が終わった後、重役から全員に労働に対する分け前を貰います。
低学年の子供たちは部落内外に今日の当部落の千灯籠の開催のPRに触れ歩きます。
【こんばんは、小松の千灯籠けん、めーてくんさい。】どんどん！【豆はきじ豆、砂糖はどっさい。】どんどん！
と声高に触れ歩き、他の部落との違いを自慢します。豆はソラマメで無く、きじ豆を使い、貴重品である砂糖もいっぱい入っていることをアピールします。
参拝者がいっぱい来ていただいて、販売している豆が完売することと、おさい銭を沢山いれて頂かないと、子供たちの分け前は増えません。それだけに子供たちの参拝者へのお接待にも熱がこもります。
バンコをだして、豆の試食やお茶を振る舞い、親が作ってくれた酢ものや漬物類でお接待をします。
千灯籠が終わって、片付け掃除が終わったら、夜遅くまで楽しい売上金の計算と子供たちの分け前を高学年の子供たちが分配し袋詰めをします。翌日、子供達全員に分配金の支払いがあります。

【提灯について】
昔は、初盆お家には、親類などから提灯をお供えするのが通例であり、初盆の家にはたくさんの提灯があった。それをもらい受けて、千灯籠の当日、参道脇には1メートルおきに提灯が並ぶほど多くの提灯が集まったといいます。

【地蔵菩薩】
大**地**（だいち）が全ての命をはぐくむ力を**蔵**（ぞう）するように、苦悩の人々をその無限の大慈悲の心で包み込み、救うところから名づけされたとされます。一般的には【子供の守り神】として信じられています。
また一般的には、親しみを込めて【お地蔵さん】【お地蔵様】と呼ばれています。

【薬師如来】
薬師如来は、病気を治してくれる仏様のことで、[お薬師さん]とも呼ばれています。
薬師尊の左手に持った薬壷（やっこ）の中には万病に効く薬が入っていて、いくら使っても減らないといわれており、当時から全国で信仰されていました。

【八大龍王】
仏法を守る八体の龍神で、水中の主のことをいいます。
八大龍王は、釈迦誕生の折には天より甘露を降らせて祝福したともいう高い神格を持つ龍神で、水をつかさどる神で水分けの神でもある。石祠の横には江湖（えご：佐賀江川）流れており子供の水難ばかりでなく、昔は部落内のほとんどの家庭が飲み水汲み利用したカワジもあったこともあり、水難の守護神として祀られている。